

# 石巻市立船越小学校

2014年 12月 11日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

## 【文献】

- (1)『大川小学校事故検証』3. 2. 5 他の小中学校における震災後の対応(H25年10月25日)大川小学校事故検証委員会
- (2)「海に沈んだ故郷」堀込光子,堀込智之(2011)鎌倉出版

## 【場所】

船越湾から250mほどの位置にある。  
住所:宮城県石巻市雄勝町船越天王山43  
※現在は他の学校と統合して別の場所で再開。



## 【東日本大震災による被害】

津波により校舎3階床まで浸水。  
※現在校舎は取り壊されている。

## 【震災当日の様子】

地震発生時、5人の児童が校内にいたが、15時30分頃には児童は11人に増え、加えて、地域住民50人ほどが校庭に集まっていた。海が見えるところまで見に行った職員が海の状況を見て戻ってきて、「津波が来るぞ!」「走れ!」「上だ!」と伝え、学校脇の舗装道路を国道238号線まで登った。(1)

## 【調査して言えること】

学校の標高は約7mで、海から250mほどしか離れておらず、地震の際に津波を想定した避難が必要な学校である。また、学校は湾のV字谷になっている部分に建っており、津波の高さが増す危険性の高い場所である。(2)実際に、電信柱よりも高い位置に津波が到達した跡が残っていた。

学校は山に囲まれており、標高の高い場所まで上げられる舗装された道路も学校の近くにあり、学校外への避難ができる学校である。実際に、震災時は学校横の坂になっている道路を約800m移動し、避難に成功している。



西から見た学校のあった場所(2014/11/2撮影)



学校北側の山の津波到達跡(2014/11/2撮影)

※手前にある電信柱よりも高い位置にあるフェンスが津波によって倒されている。



学校(東から見た海(2014/11/2撮影)